

令和5年度 第1回 東京都教員育成協議会 会議要旨

- 1 日 時 令和5年7月31日(月)午後2時から午後4時まで
- 2 会 場 都庁第二本庁舎31階特別会議室22及びオンライン開催
- 3 出席者 藤井委員(会長)、佐々木委員、吉川委員、佐藤委員、小黒委員、鳥海委員、
荒川委員、加藤委員、宮田委員、山田委員、吉村委員、栗原委員

4 議事内容

(1)「東京都教職課程カリキュラム」について

- 大学では、本カリキュラムを参考に大学のカリキュラムを策定してきた。昨今は大学独自の内容が増えている実態がある。改めて、本カリキュラムの在り方を考えていくべき。
- 学校では、本カリキュラムの評価等の部分を活用し、教育実習等の受け入れをしている。教員育成に向けては、教育実習以外にも学生が学校の様子を知る機会を設けるなど、教育委員会・学校・大学との連携を強化し、時代に合わせた新しい仕組みを構築していく必要があると思う。
- 本カリキュラムの他にも、大学との連携の一環として、都教育委員会が作成している「教職課程学生ハンドブック」がある。内容は、学生にとって分かりやすく、親しみやすいものとなっている。どのような場面で役立つかを示されていると、より活用されるものになると思う。
- 今後は、本カリキュラムと「教職課程学生ハンドブック」を発展的に統合し、大学等で活用できる構成や内容にしていく。あわせて、ホームページ等を活用した情報共有等を検討していく。

(2)「令和6年度東京都教員研修計画」について

- 教職員研修センターでは、「教員研修計画」に基づいた研修を実施している。教員が、指標に示された身に付けるべき力を意識しながら、自身の課題に応じた研修を受講することにより、資質・能力を高めていけるようにしたい。
- 教員が様々なプラットフォームを活用して自主的に学び、研修履歴として蓄積することができるようにするという動きがある。大学としては、大学の特性を生かして、研修用のコンテンツ等を開発・提供していく必要があると考える。
- 学校では、自己申告の面談等の機会に、指標を参考に、教員のキャリアに合った研修を進めるよう話している。
- 今後は、委員からの情報や意見を参考に、令和6年度教員研修計画を策定する。

(3) 教員育成の取組について

- 都教育委員会では、指標を策定し、それに基づくチェックシート等を活用して、教員が自身の課題を知ることができるように準備を進めている。また、研修においては、内容や方法を工夫し、受講者にとって個別最適な学びとするとともに、得意分野を伸ばすことができるようにしている。
- 教員育成の課題として、コミュニケーション能力やICT活用能力の向上を図ることが挙げられる。学校では、職層や経験に応じて、ペアを組んでOJTを実施したり、ベテランの教員に相談をできるようにしたりするなどの仕組みを作っている。
- 大学では、指標の基礎形成期の部分を見通した養成に取り組む必要がある。教員になる上で必要となる資質・能力を身に付けられるような内容を組み込んだ授業を進めていかなければならないと考えている。
- 今後は、養成段階から採用、研修段階まで、大学、教育委員会、学校が連携を深めながら、令和の教育を担う教員育成に取り組んでいく。